



2021年上半期（1月～6月）の 木材輸入実績について

1. はじめに

2021年上半期（1～6月）は、米国での新型コロナウイルス感染症拡大からの経済回復を契機とする住宅需要の増加や、それに伴う北米での木材価格の高騰、世界的なコンテナ不足に伴う海上輸送運賃の上昇等により、我が国の木材輸入も大きな影響を受けました。

本稿では、2021年上半期における木材輸入の実績を輸入額と品目別輸入量に着目して紹介します。

2. 2021年上半期の木材輸入実績

（1）木材輸入額

本年上半期（累計、以下同）の木材輸入額は、前年同期比6%増の5,312億円でした。国別に見ると、中国が同5%、ベトナムが同14%、カナダが52%、フィリピンが同54%増加する一方、EUは同6%、インドネシアは同10%、ロシアは20%減少しました（図1）。昨年、中国に代わって、EUが木材輸入額第一位となりましたが、本年上半期は、再び中国が第一位となりました。

（2）丸太

本年上半期の丸太輸入量は、前年同期比8%増の137.3万m³でした。国別に見ると、カナダが同20.6%増の39.8万m³となる一方、米国は同10%減の79.3万m³、NZは同1%減の14.4万m³となりました（図2）。

カナダでは、昨年、同国最大の丸太輸出業者が、一時的に自社有林の伐採を停止したことにより、我が国への輸出货量も激減（2019年比68%減少）しましたが、その後、伐採・輸出が再開されたことにより、大幅な増加となりました。

（3）製材

本年上半期の製材輸入量は、前年同期比17%減の223.4万m³でした。国別に見ると、EUが同19%減の101.5万m³、カナダが同6%減の60.0万m³となりました（図2）。

EU産製材は、主に構造用集成材の原料（ラミ

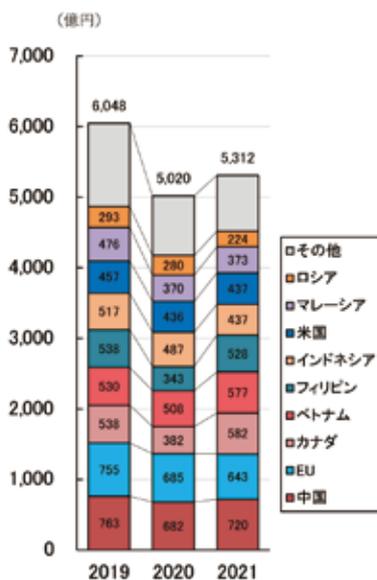


図1 2019年から2021年の上半期における木材輸入額

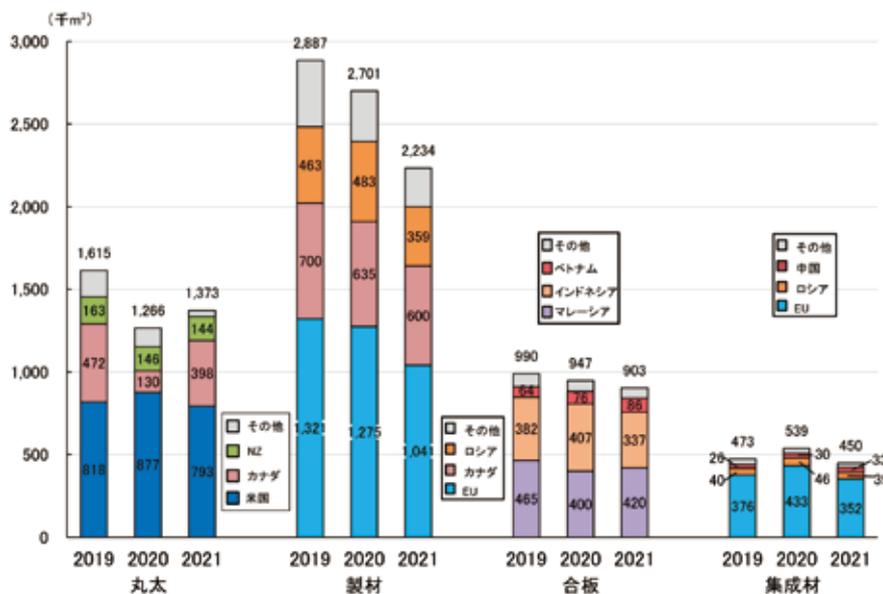


図2 2019年から2021年の上半期における品目別木材輸入量

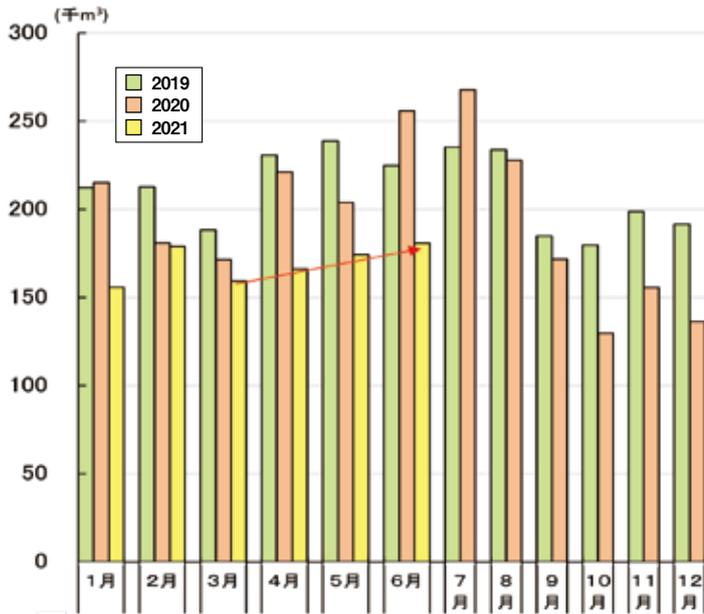


図3 EUからの月別製材輸入量(2019年1月～2021年6月)

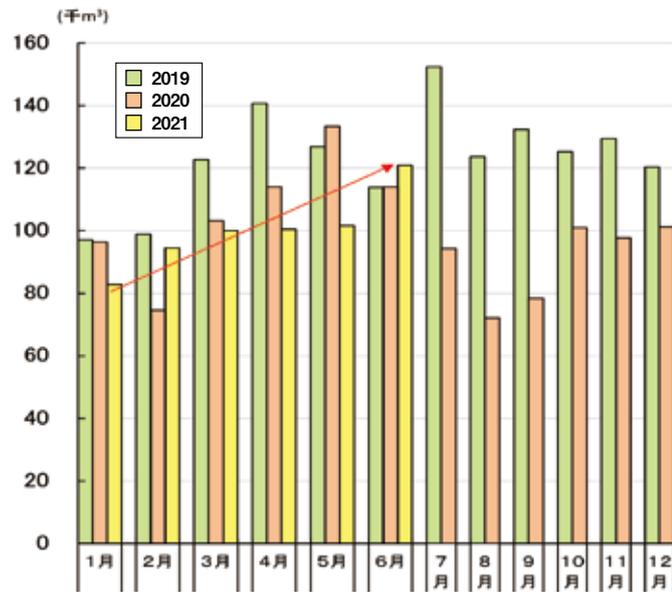


図4 カナダからの月別製材輸入量(2019年1月～2021年6月)

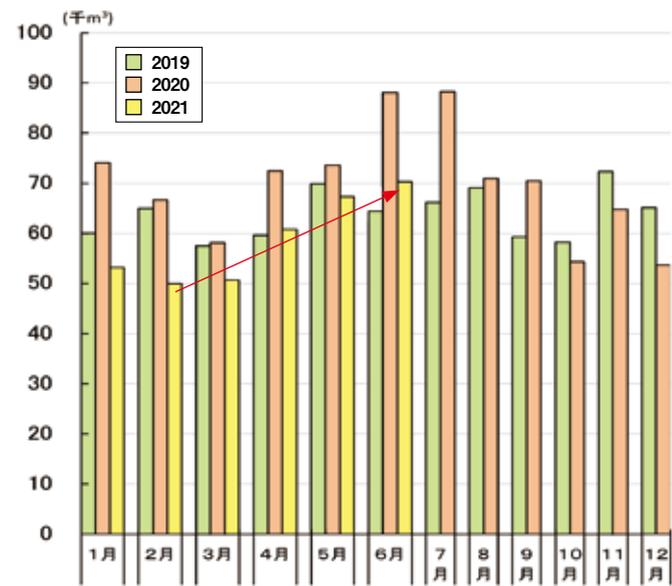


図5 EUからの月別集成材輸入量(2019年1月～2021年6月)

ナ)に、カナダ産製材は、主に2×4住宅の部材に使われています。EU産製材の方が、カナダ産製材よりも減少幅が大きくなりました。

両国からの輸入量を月別に見ると、EUは本年4月から、カナダは本年2月から前月比で増加傾向が続いています(図3、4)。

(4)合板

本年上半期の合板輸入量は、前年同期比5%減の90.3万m³でした。国別に見ると、マレーシアは同5%増の42.0万m³となる一方、インドネシアは同17%減の33.7万m³になりました(図2)。

(5)集成材

本年上半期の集成材輸入量は、前年同期比16%減の45.0万m³となりました。国別に見ると、EUが同19%減の35.2万m³となりました。EUからの輸入量は全体の78%を占めています(図2)。構造用集成材に限ると、輸入量計は同17%減の39.5万m³、そのうちEUが同18%減の34.2万m³となりました。

EUからの輸入量を月別に見ると、本年3月から前月比で増加傾向が続いています(図5)。

3.おわりに

本年5月以降、北米の製材価格は急落して、5

月21日の1,514ドル/m b fから8月20日には399ドル/m b fまで下落しました。また、本年7月の米国の住宅着工戸数は、153万戸(季節調整、年率換算値)で、依然として高い水準にあります。さらに、北米太平洋岸での森林火災による原木供給への影響も懸念されています。このため、今後の世界における木材需給の動向は、依然として不透明な状況です。

林野庁では、今後も引き続き、木材輸入の動向に関する情報を積極的に公表してまいります。

※ 毎月の木材輸入実績は、翌々月の下旬に林野庁ウェブサイトに掲載しておりますので、ご利用下さい。 <https://www.rinya.naff.go.jp/j/boutai/yunyu/boueki.html>

※ グラフは全て、財務省「貿易統計」から作成。

※ 「m b f」は北米における材積の単位で、1,000ボードフィート(b f)の意味。1 m b fは2.36 m³に相当する。